

第7回世界自閉症啓発デーシンポジウムに寄せるメッセージ
国連事務総長 潘基文（パン・ギムン） 2015年4月2日、東京

このように貴重なシンポジウムの参加者の皆様にご挨拶を送ることができ、嬉しく思います。よりインクルーシブな社会を育てるために尽力されている、日本政府と日本自閉症協会に感謝いたします。

国連総会は、自閉症のある人々のためのより多くのアクセスと機会を訴えました。

また、総会は4月2日を世界自閉症啓発デーとする決議において、自閉症のある人々の社会への融合支援につながる、行政担当者やサービスやケアの提供者、そして家族や専門家でない人々へのトレーニングの必要性についても訴えました。私は、近年の自閉症に関する市民の意識の高まりや、自閉症のある人々を対象とした公共サービスの増加を頼もしく感じています。同時に、私は、私の妻とともに、自閉症に関係するネットワークや組織を強化することへのより高い関心を引き続き提唱してまいります。

例えば、先月、仙台にて開催された第3回国連防災世界会議で、私たちが目の当たりにしたような共通課題への、グローバルな対応モデルを例に挙げるすることができます。この会合で、インクルーシブで持続可能で災害に対して回復力のあるコミュニティの実現のために、障害のある人々を含めた政府や市民社会や国連の代表が力を合わせたことを、私は嬉しく思いました。また、東日本大震災の時に、自閉症のある人が身につけた力を、周りの人の「癒やし」のために活用していたことを知りました。これは、自閉症のある人が、ただ支援を受ける存在に留まらないという事例です。自閉症のある人も、社会全体の発展を推進することが可能なのです。

こうした成功を世界中で再現するために、私たちは自閉症についての関心と理解を更に高める必要があります。関心と理解を深めることで、親は子どもの早期療育を求めやすくなります。また、早期から十分な支援を受けることが、共同体の中心で教育を受けることにつながります。さらに、自閉症のある人たちに対して、学校が門戸を開くように政策立案者が働きかける動きにもつながります。

さて、すべての人々と同様に、自閉症のある人たちには非常に大きな可能性があります。自閉症のある多くの人々は、優れた視覚的や芸術的または学術的スキルを持っています。支援機器などを利用することで、発話のない自閉症のある人たちもコミュニケーションが可能となり、隠れた才能を伝えることができます。このように、自閉症のある人たちの弱点のみに注目するのではなく、彼らの才能を理解することが、真にインクルーシブな社会の実現にとって不可欠です。

ほとんどの親は子どもたちに世の中に出る準備をさせると言われていますが、自閉症のある子どもの親は、子どもたちのために世の中を準備します。私たちが共有する未来に、自閉症のある人たちが貢献できるように、力を合わせて国際社会を動かし、自閉症のある人たちにとって望み得る最善の環境を整えましょう。

この精神を尊重して、シンポジウムの成功を心よりお祈りいたします。